

インドネシア「国立ハサヌディン(Hasanuddin)大学」の日本語学科とテレビ会議をしました

国立ハサヌディン大学は、インドネシア、スラウェシ島、南スラウェシ州の州都マカッサルにあります。6月5日、日本時間18時(インドネシア時間16時)より、その大学の皆さんとのテレビ会議を開催しました。

本学からは、日本語教育学ゼミ(小野ゼミ)のメンバーを中心に、大学院生9名、学部生1名が参加しました。ハサヌディン大学からは、文学部長、学科長、今回のお世話をしてくださった廣田知子先生をはじめ

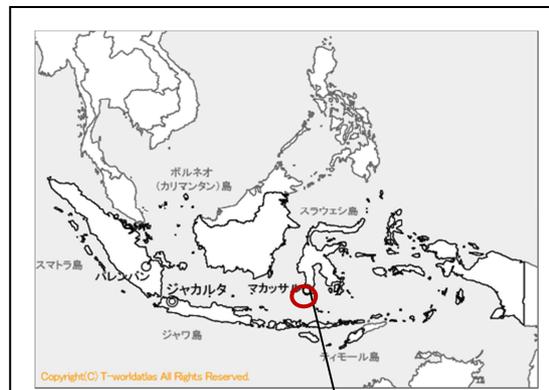
めとする教職員9名、日本語教育を専攻する学部生5名が参加してくれました。

はじめに、文学部長、学科長より、本学との交流実現への謝辞、継続的な交流への期待のお言葉をいただきました。そして、互いの大学の日本語教育プログラムについての説明の後、全員の自己紹介、質問タイムと続きました。ハサヌディン大学には、日本の歴史や文化、文学に関心を持ち、日本語プログラムで学ぶ学部生が現在238名在籍しており、8つある言語専攻のなかで、英語について2番目に人気が高いということ等を知ることができました。

次に、日本語弁論大会に優勝し本大会に臨むというムリさん(学部2年生)が、「夢からはじまる」というテーマで日本語スピーチをしてくれました。「夢の力を信じない人が多いですが、夢はだれでも、いつでも、どこでも持つことができます……」。不屈の精神で夢の実現に向かっていくことの意義と喜びを、吉田松陰や本田宗一郎の言葉を織り交ぜながら、ムリさんは熱く語ってくれました。彼女だけではなく、ハサヌディン大学の学生さんたちの日本語のなめらかさ、語彙の豊富さには驚かされました。

約4000キロ離れたインドネシアの方々と、リアルタイムで会話を楽しめる。互いの夢についても語りあうことができる……。1時間のテレビ会議でしたが、私たちの世界を格段に広げてくれるひとときとなりました。

これからも定期的に、会議や授業を通じて交流していく予定です。



ハサヌディン大学
(マカッサル)

(文責:言語系(国語)コースM1 三浦真美)



映像も音声も鮮明で、驚き。



ハサヌデイン大学の説明に耳を傾ける。



ムリさんの堂々としたスピーチ。



スピーチについての質問の様子。